

令和5年度学校評価表

島根県立出雲高等学校

【学園の指標】
(1) 自主自立の精神に富み、気品高き自治の学園
(2) 誠実、勤勉にして、社会的秩序を重んずる学園
(3) 職員、師弟、校友相睦み合う、友愛協和の学園

(1) 自主的な高校生活～自主自立～	①将来の目標を明確にし、その実現に向けて努力する。 ②出雲高校生としての誇りを持ち、品位ある言動を心がける。 ③心身の健康の保持・増進に努める。
(2) 活力に満ちた高校生活～文武両道～	①日々の授業や探究学習に前傾姿勢で取り組むとともに、主体的・計画的な家庭学習を行う。 ②部活動・生徒会活動・学校行事等に主体的・協働的に参加し、健全な心身の成長を図る。 ③社会課題や科学技術に触れる機会を積極的に生かし、将来に向かって具体的な行動を起こす。
(3) 心の触れ合う高校生活～友愛協和～	①気持ちの良い挨拶の交わり合いを心がけ、豊かな人間関係を築く。 ②友人や周囲の人を思いやる心を培うとともに、互いの存在を認め合う。 ③様々な機会をとらえ、教職員、地域や国内外の人々と触れ合い、成長の糧とする。

学校スローガン & キーワード
自立・協働・挑戦
アイ(～合い、愛)に満ちた見続ける学校
多様な経験の積み重ねを支援

評価の指標(肯定的評価値の割合) A:80%以上(満足できる) B:60～79%(もう少し) C:50～59%(改善が望ましい) D:49%以下(改善が必要)

領域	目標 (評価項目)	目標達成のための施策	主たる 担当分掌	評価 指標	自己評価					取組状況と課題	改善策	学校関係者評価	
					目標値 [a]%	評価値 [b]%	達成指数 [b/a]	平均評点 [総和/4]	評価			総合 評価	コメント
					下段は昨年もの								
環境整備	○学びやすい環境の構築 ○働きやすい環境の構築	(1)教育目標及び重点目標の達成に向けた教育活動が行われている。	管理職	80	95.2	119%	3.2	A	概ね高い評価を得た。「この学校に入って良かった」という質問についても生徒・保護者とも高い評価となった。それぞれの教育活動が「育てたい資質・能力」の伸長にどの程度つながっているかについて、検証する必要がある。	様々な教育活動について、「育てたい資質・能力」の視点から、意義や必要性を改めて確認しながら実施するとともに、その方法についての改善を進めていく。	A	・全体的に良い評価となっている。それが高校入試の倍率にも表れているのではないかと。 ・学校の魅力や活動の様子を地域にもより理解してもらうために、一層の情報発信を望む。中学生に向けても動画等でしっかりと発信するとよい。	
		(2)PTA活動やPTAの広報等を通して保護者との連携を図る。	総務	80	98.4	123%	3.4	A	諸活動を円滑に運営できている。	保護者の皆さんとの意思の疎通をさらに密にしていきたい。	A		
		(3)様々な奨学金制度を紹介し、生徒・保護者にその活用を勧める。		80	96.7	121%	3.4	A	適切・正確に奨学金業務を行うことができた。	担当者に頼り切っている状態なので、業務の適正な分担と危機管理という観点から、総務部全体が業務内容を共有できるようにしておきたい。	A		
		(4)ホームページにより保護者・地域への広報活動を行う。		80	90.5	113%	3.2	A	年度当初にホームページの更新方法について印刷したものを配布している。	各学期ごとに情報をチェックし、更新を促す。	A		
		(5)生徒の健全な教養を育成するために適切な資料を整え、利用しやすい図書館運営を行う。	図書文化情報	80	100	125%	3.6	A	分掌や教科、生徒や先生方の要望にできるだけ応えており、授業等で積極的に活用していただいている。	資料や文献について相談にのり、調べ学習のサポートを心がけ、引き続き支援していく。	A		
		(6)学習活動に即応できるICT機器利用の環境を整える。		80	93.7	117%	3.4	A	支援員さんの来校をお知らせし、ミニ研修会を開催している。	ICT関係について先生方に助言、協力していく。	A		
		(7)清潔で整った校内美化を保つよう、積極的に清掃活動を行う。	保健	80	74.6	93%	2.9	B	清掃活動については、校内美化を概ね保つことができた。しかし、生徒の取り組み姿勢に課題があったり、掃除が行き届かない箇所があったりした。	掃除のとりかかりを早くし、自分の仕事が終わった後にも、周囲の状況に目を向けることができるよう、美化委員会を中心に啓発活動を行いたい。また、清掃用具を整備することで、効率よく掃除ができる環境を整えたい。教職員も一緒に掃除に取り組むことで、学校全体で時間いっぱい掃除に取り組む雰囲気を高めたい。	B		
		(8)費用対効果を考えた効率的な予算執行を行う。	事務	80	100	125%	3.5	A	様々な事業が復活して執行が増えており、各分掌・教科との連携を図り、より高い効果が得られるような効果的な予算執行に努めた。	費用対効果や優先順位に留意し、安全な教育環境の整備に特に配慮するなど、限られた予算の有効な執行に努めていく。	A		
人権尊重の精神の育成	○自他を尊重する精神の育成 ○豊かな人間性の育成	(9)生徒が主体的に取り組めるような生徒会運営を行う。	生徒	80	98.4	123%	3.5	A	コロナ前に戻しながらの状況であったが、生徒会を中心に取組ませることができた。	感染症対策は取りつつあるが、完全にコロナ前の状況に戻す。	A	・生徒が地域に出かけ自主的な活動を行う様子がマスコミ等で報じられているが、ボランティア活動など、地域との関わりがもっと増えるとよい。	
		(10)人権教育に係るホームルーム活動や講演会等の学習をとおして、人権感覚を育成し、自他の人権を尊重しあう意識の醸成を図る。	生徒	80	95.2	119%	3.2	A	担任・副担任の協力のもと人権学習はスムーズに実施された。	生徒の課題や背景を理解し、情報共有していくことを大切に、人権教育を深化させたい。	A		
		(11)いじめに関するアンケートを活用し、いじめを許さない意識を育てる。		80	98.4	123%	3.5	A	いじめアンケートに回答した生徒には学年部等と連携し適切に対処できた。	年間4回のいじめアンケートを継続して行い、小さな部分から発見できるようにしたい。	A		
規範意識の定着 ○基本的な生活習慣の確立	○規範意識の定着 ○基本的な生活習慣の確立	(12)服装検査や街頭指導、集会指導等のあらゆる機会をとらえて、基本的な生活習慣の確立に向けた指導を行う。	生徒・保護者アンケートの結果を参考にした	80	80.6	101%	3.0	A	携帯電話使用に関する校内ルール違反が複数件あった。遅刻は特定の生徒が繰り返している状況であった。	生徒会と協力して、遅刻防止に関する取り組みを検討したい。	A	・卒業生会では卒業生の人材バンクを創設しようとしている。学校とも相談しながら進めるので、キャリア教育や課題研究でのアドバイスなどに役立ててほしい。	
		(13)部顧問会や大会・遠征等の支援を行い部活動の活性化を図るとともに、規律ある活動に向けた指導を徹底する。	教職員自己評価における肯定的評価の割合	80	82.3	103%	3.0	A	活動中は巡回してもらうようお願いした。突発的な事故への対応はスムーズであった。	管理責任は教員にあるので、部活動中の巡回は継続して行う。	A		
		(14)街頭指導や自転車点検等の施策を行うことで、生徒の交通安全指導を徹底する。		80	87.3	109%	3.2	A	交通事故が起こった時のマニュアルを配布し、啓発を図った。	学校周辺での送迎が年間を通じて問題であった。引き続き、保護者に啓発していく。	A		
確かな学力の養成	○基礎・基本の定着 ○主体的な学習態度の育成	(15)各教科と連携して指導方法の研究を行い、教員の指導力向上と教科指導の充実を図る。	教務	80	75.0	94%	2.9	B	学力向上のための取組や学校の目指す未来像等、新教育課程の進行に伴う様々な課題に教科主任会や各教科会の場で検討していく必要があった。	来年度の新教育課程の完成年度に当たる。これまでの取組を考慮に入れた上で改善していく点を教科主任会を中心にして検討する。	B	・海外研修が再開されたことは大変良かった。このような体験が学習意欲の向上にもつながると感じた。今後もこうしたチャンスを活かしてほしい。	
		(16)GRITizmノートや休日の自習開放を活用し、自ら学びに向かう意識を高める。	キャリア教育学年部	80	90.2	113%	3.2	A	GRITizmノートや休日開放に関する教員の回答は昨年並み。一定の評価を得ている。一方で、主にGRITizmノートを中心にした生徒向けアンケートの評価は大幅に改善した。	GRITizmノートについては一定の効果が示されていると考えられるが、自習開放は教員の負担にもなっているのではないかと。生徒からの一定の評価もあるPTA主催事業なので安易に廃止とはいかないが、外部の力を借りる等の工夫を考えていきたい。	A		
		(17)3年生の土曜補講・放課後補講を適切に実施し、生徒個々の進路志望の達成に向けた学力向上に役立てる。		80	81.0	101%	3.0	A	土曜補講や放課後補講への評価は昨年並み。また、教職員だけでなく生徒・保護者からも一定の評価を得ている。一方で、教員の負担になっている側面があることは否めない。	本年度から2学期の放課後補講を希望制とした。これにより、教員の負担軽減(一人当たりの実施回数が増える)と生徒の主体的な学習(言われてやるのではなく自ら希望して受講する)につながると考えている。こういった工夫により、より効果的かつ負担の少ないものにしていきたい。	A		
		(18)大学入学共通テストや各大学の個別試験に関する情報を研究・整理し、教職員・生徒・保護者に発信する。		80	96.7	121%	3.3	A	入試等の情報発信については、概ね高い評価を得ている。	引き続き効果的な情報発信に努めたい。	A		
進路目標の育成 ○進路実現を支援する	○進路実現を支援する	(19)3年間を見通した進路指導計画のもと、適切な情報提供により、生徒・保護者の進路意識の高揚を図る。	キャリア教育	80	96.7	121%	3.3	A	進路指導計画の作成と発信については、概ね高い評価を得ている。	本年度から1,2年学年主任を含めた拡大分掌会を学期に数回ずつ開催している。これらの工夫により、持続的なものとしていきたい。	A	・保護者アンケート結果によれば「わからない」を選択した割合が高い項目がある。保護者にとっては学校での取組の詳細まではわかりにくいところがあるので、アンケート内容を再考するとよい。	
		(20)進路希望調査、プロフェッショナルセミナー、久敬ゼンディビティなどを行い、キャリア教育に対する意識の高揚に努める。		80	98.4	123%	3.5	A	キャリア意識の高揚については、概ね高い評価を得ている。	大学説明会等への参加数が本年度は大幅に増えた。こういった活動を通じて、より主体的にキャリア形成ができるよう引き続き支援したい。	A		
		(21)個別添削、小論文指導や面接指導を組織的にを行い、進路実現を支援する。		80	85.5	107%	3.1	A	個別指導の組織化や工夫については、昨年度より評価が下がった。多様化する入試と指導への負担感があるものと考えられる。	昨年度に続き本年度も外部から講師を招へいし、教員向けの小論文指導講座を開催したが、本年度は生徒向けの講座も行った。こういった試みを通じて、より効果的な指導体制を構築したい。	A		
		(22)各種研修や課題研究などを通して、SSH事業と科学系人材・グローバル人材育成のための取り組みの充実を図る。	教育開発	80	88.3	110%	3.2	A	第Ⅲ期の1年目として主に1年生のプログラムを変更した以外は例年と比較して大きな変更はなかったが、SS活動に関する啓発が不足した可能性がある。第Ⅰ回SSパワーアップセミナーの中止や1年SS、BSの大幅な事業変更などが重なり、多くの先生方に負担をかけた。	教職員研修「10minutes」の更なる充実やテキスト・マニュアル類を簡素化したリーフレット等の充実を図る。 各事業の推進をすすめながら業務の効率化による教職員の負担軽減を心がける。	A		
安全対応能力の向上	○危機管理体制の確立 ○危機回避・対応能力の向上	(23)危機管理マニュアルにより災害・事故発生時に迅速かつ適切に対応できる体制を整える。	管理職	80	91.4	114%	3.3	A	豪雨等による臨時休業の基準や研修旅行における危機管理マニュアルの策定など、様々な危機に対して素早い対応ができるよう努めた。いじめや不登校等への対応については、各分掌や学年会と連携して適切に対応した。	危機管理マニュアルの見直しを図るとともに、機動的にチームで対応できるよう、日頃から情報共有を密にし、協働性を高めたい。	A		
		(24)学校防災計画を作成し、計画的避難訓練を実施することで生徒・教職員への周知徹底を図る。	総務	80	95.2	119%	3.3	A	従来の防災訓練、防災ホームルームを適切に実施できた。	原子力防災という観点での防災ホームルームが出来ないか検討したい。	A		